

施設関係者評価委員会議事録

令和3年12月23日

10時～12時15分

浦堂認定こども園

開会の挨拶後、所属とお名前を紹介し、公開保育見学のため園庭に出る。

園庭にて、大地の再生スタッフから説明を聞きながら、みんなの庭の作業開始する。

見学後、園内に戻り年長の部屋でサークル型に配置した椅子に座り、感想を聞く。

- ・とがってるもの使ってたけど、周りを見て使っていて、先生もみていてけど、感心した。
 - ・道具の使い方をあの年でわかって使って、本物の道具だからいいのか。体で体験しているんなことを学んでいる。
 - ・以前は大きいショベルも出ていたが、普段は扱えるけど、昨年度は、敏感な子が在籍していて、かっとなると制御できないときがあり、片付けていた。
 - ・大地の再生スタッフ：ミニツルハシは今日初めて出したところ。(先日、保護者清掃日が行わる時に購入)数はなかったが、ミニツルハシは子どもは使っていた。地面が固いから子どもたちから貸してくれって言われていて、あのミニツルハシでやる必要があると子どもたちはわかっている。普通の園はとがっているからダメとなるけど、ここの園は使い方を学べるからと許可をいただいた。使い方を知らない方が危険で、一人ずつに使い方を丁寧に伝えている。教員をやめてから畑や田んぼをやりオーガニックの無農薬をめざしているが、周りから農薬は運ばれてくる。地面を良くしないとと思って・・・子育てを追及したらこうなった。子どもたちの未来のために、空気と水の通る健全な土地を残すこと。それを流域ごとに残していきたいが、自分一人ですることには限られているので、教育が必要と戻ってきた。浦堂で、ビオトープや森にしたいというお話をきくが、どこも園庭はかちんこちん。空気の通る層に水や根がのびることで、上も育つ。なので、植えたい気持ちもわかるが、固い土地だと植えても育っていかない。地面の下をまず改善していくところから始めている。空気を通す溝を掘りながら、際に植栽していくと、根が張り、空気が通るようになってくる。定期的に掃除が必要なので、そこで生活している人ができるようになることが一番大切。
- 3歳児が雨の日にカップ着て、溝を掘りに来た。これは後でやり直さなアカンかと見ていたら、アリの巣のように溝ができて、大人がつながっていない所とはけ口だけつなげてできた。五感が大事で、大人は力任せにまっすぐ掘るが、子どもは掘りやすいところをほっていく。雨が降った時にできる道はつまりにくい。くねくねしたら速く流れにくいから、土砂も流されなくなる。防災ですよ。五感を養う活動にもなっている。子どもは呼び覚ますのが早い。最初、水はけを良くする前提で子どもたちにどんな庭にしたいか聞いたら、思ったのと違って、水たまりで遊ぶことを楽しんでた。あとはお家を作りたいとか、蒔きたい種を蒔く畑が欲しい、実がなる木、長い滑り台が欲しい・・・。今後は、日常的に火を扱うことをしていきたい。薪割とか火をつけるには技術がいる。昔は、蒔き拾いを里山ですてたからきれい

になっていた。焚き火も入れすぎると空気の流れが通らなくなる。玄人は新聞じゃなく、杉の葉でつけるが、ふつうはなかなかできない。不登校の子が一日火に薪をくべていた。自宅に帰ると楽しかったと・・・二言三言しか話していないが、火の力ですよね。

・わかるは、答えを出すための討論ではなく、自分の思いを語り、それをジャッジするのではなく、聞き合う場。どの意見も大切にされる場です。

・子どもたちには、土いじりという遊びが必要だと思っていたが、土は木が育つための一つのものづくりであり、遊びのためのものではなく、園芸のやり方も変わるかもしれない。すべては循環していて、あるものしかみないのではなく、いろんなことが関係していく。

・大地の再生の話を聞いてはいたが、見て理解が深まった。空気と水の循環。人間が生きていく中で欠かせないものを感じる。土が豊かなら作物は育つ。

・根っこが大切。これからの教育に必要な事は何だろうと考え、南生駒や美山で小学生にルールなしで一日解き放つと、顔が変わる。だけど根っこは幼児教育。自然と関わることを自然を守ろうではなくて、自然に守られて私たちがあることを認識することが必要。道具をみていると怪我しないかどきととするが、道具を使って会話している。人類の進化は道具から始まっている。この幼児期に道具を使い分けている。これでだめならこれがあるよと。問題解決能力がすごい。私は、実感体験のない学びはないと思っている。今高校生の学びの場で自然再生のビニールハウスで野菜作りをしている。これからの時代を見越して、食糧難の時代にどう作物を考えるか。生き物を育てる活動が、元気のエネルギーになる。

・園庭の園児が走り 1 番の子を、2 番の子が教えてくれた。道具の使い方が腰が入っている。腰が入らない子が多く、ビジョントレーニングで腰が入るトレーニングをしているのに、ここの園児は自然とできていてびっくり。しなやかな動きがしなやかな心の発達につながる。ぎくしゃくした動きは、心のぎくしゃくにつながる。

・私の一番はバレーボールをしていた時。最近2年親方について体を動かして、感覚や思考が戻ってきた。

・遊びがエンタメ化されて、自然と遊ばされている。生きていくための学びが必要なのに、逆転の学びの積み重ねになっている。大地の再生の活動は、教科に振り分けるとすごい量になる。

・相手が自然だから、上手くいかないことを、自分で工夫して超えていく力がつく。

・学びのための自然じゃなく、生きていくための自然からの学びで、それが次世代リーダーに必要。

・2 歳児の双子がいて、マンホールの土だしをしていたら、やりに来て、私が入るスペースがなくなる。でも届かなくなったら、やれと言ってくる。

・道具の取り合いがあるが、放っておいたら、一人の子が使ってる。上手に使っているのを見て待ってる。小さい子が、道具が空いた時に隙間で使ってる。我慢してみてることの学びがあり、憧れて出来る育ちもある。なんでも平等じゃなくてもいいのでは。

・一日作業しているので、最初にやりたい子が来て、疲れた頃に次の子が来る。

・やりたいことができ、選択ができる。考えを育てることにつながる。家庭で親が選択すると、上手いかなかったら、人のせいにする。子どもが自分で選ぶ、やりたいで選択して動けていることがすごい。

・ここに作業にきて、一番びっくりしたのは、興味ある子が来てくれたらいいということ。最初、作業に出たら、本当に誰も呼ばない。やりたい子を待つ姿勢の本気度にびっくり。そんななか、作業してたら一人二人と少人数が集まり、日に日に子どもが増えてきて、今はトラック見たら集まってくる。「待つ」姿勢があつての「今」なんだと実感している。作業が始まったら、楽しそうって集まってきた。本気の工事の作業を興味津々で見てくる。危ない時はきちんと伝えている。その感じが子どもたちもわかるから、わかってくれる。だから、道具を使えるようになるのが早い。知恵がある。

・今日見学に来て、どの方が大地の再生の人かわからないくらい溶け込んでいた。特別なゲストが来ているという感じじゃなく、自然に〇〇さんが来ているという感じ。

・わらも土にいい影響を与える。理想は森の土の状態。雨が直接あたったら土は固くなる。落ち葉があることで、クッションになる。園庭に炭を蒔いたら、すぐ集めて遊びになる。まだ地面になじんでない。

・小学2年生だからと2年生の勉強ができてないと心配はいらない。実体験を通して学ぶことが大事で、いつかは一致する。徳島県のスクールトエックは、小学の間畑で遊び続けて、中学にはいって、小学校の復習の期間でマスターしてしまう。その伊勢さんが「大人が木を付けないとコントロールしている」と何度もいい、本当に大事な事は、子どもがやりたいことを待てるか。結局、コントロールしたい大人が多すぎる。主体的といいながら、こうやったらいいと大人の顔色をみながらする子どもがいる。

・小学校で講師をしていたときに、半時間で1問しかしない先生がいて、その子どもは話続けている。一方プリントばかりしているクラスの子は、パターン化していて、パターンと異なると考えれなくなる。(小学4年生)

・子どもの学びを待つということは、こちらが試される。手をかければ、目に見える成果はすぐ出るけれど・・・信じるしかない。できない子もいるかもしれないが、答えを言ったらおしまい。問いかけはある。育ちに期待する。

・保護者は目に見える成果が評価しやすいので、となりのクラスはこんなことしてる・・・とか、アピールがわかりやすい方が保護者満足は上がるけど、しんどい子もいる。毎日のことをすごく丁寧にして、ゆっくりすることで育つことが好きな子もいる。

・行事をだんだん減らして行って、通信を毎日出すなど工夫がいる。行事はわかりやすいけど、日々のことはわかりにくく、伝わりにくい。

・昔、〇×式と記述式の問題を解くことで違う考え方になるのではと思った。幅のあるものに取り組む必要がある。両方含めて勉強の仕方がある。

・小学4年生の子が、「国語やのに答えがあるのはなぜ？」と聞いてきた。「国語やで！」と。

- ・おもしろい子は発想が次々と出てくる。ただ、場所によってはずっと怒られ続けちゃうかもしれない。周りの大人がその子の特性をどう理解して、どう繋げていくかが大事。
- ・浦堂でしていることを大切にするなら、浦堂小学校、浦堂中学校高校をつくらなきゃいけない。学び続けられる教育が必要。
- ・求めていくことから、作り上げることへ。森のようちえんの関係者もみな学校をつくり始めている。

最後にひとり一言

- ・便利な世界に生きようとしがち。原点に戻りたい。
- ・幅広い人間になるために福祉に関わらせてもらってる。福祉のメンバーで大地の再生に参加したい。
- ・SSWとして、火をみて薪をくべて、家出て経験するヒントを得た。
- ・子どもたちと関わると、元気とエネルギーをもらって、今何をすべきかを思い出せる。
- ・生きるスタイルはいろいろあっていい。子どもが振り回されてる世の中、大人社会が見直されていくといい。
- ・雑談に育てられたので、小さい子には余計な事、しょーもないことを目いっぱいさせてあげてほしい。
- ・いろんな視点で話せて有意義な時間だった。これからしていくことも明確になった。